

平成31年度(令和元年度) 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 中井 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題
・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※全ての実施教科で、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問うようにしています。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

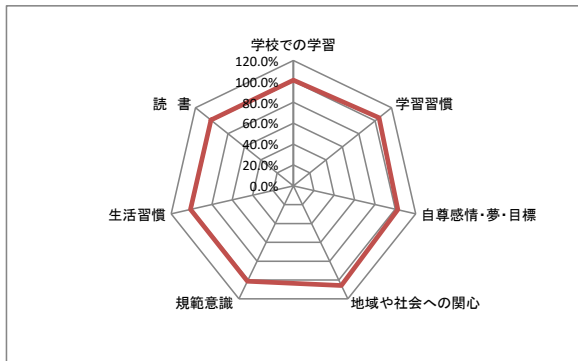
(1) 全国・本市の学力調査(国語, 算数)の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.1	65	9.0	64
全国	8.9	64	9.3	67

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	記述式の問題の正答率は、すべて全国平均を上回っている。無回答率が、全国平均を上回っている問題が14問中5問あった。これまでの書くことや表現することの指導の成果が現れていると思われるが、問われていることが何なのか、しっかりと読み取る力をつけていく必要がある。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よってきた問題	漢字や接続語など言語についての知識理解を問うものは、多くの問題で正答率が全国平均より10ポイント以上上回っている。	
	努力が必要な問題	わかりやすく伝えるための工夫を捉える問題は、選択式にも関わらず無回答率が高く、正答率も全国平均を下回っている。	
算数	全体的な傾向や特徴など	記述式の問題で、無回答率が高い。数と計算領域の正答率は高いが、2つの図形をずらしたり回したりして合わせてできる形を答える問題や、2つのグラフを関連づけて読み取ること問題の正答率が低く、全国平均を下回っている。よく読まないと求められていることがわかりにくい問題に苦手意識がある。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よってきた問題	加法と乗法の混合した整数と小数の計算は、正答率が全国平均を14ポイント以上上回った。	
	努力が必要な問題	除法の式の意味を問う問題は、選択式の問題であったが正答率が低く、全国平均ともほぼ同水準だった。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> どの学年でも、宿題のほかに自学を取り入れており、家庭学習に主体的に取り組む児童が増えてきている。よい自学ノートを取組などを紹介することで、より多くの児童が取り組めるようになっていきたい。 「自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいるか」に対する肯定的な回答が、全国平均を下回っている。取組は行っているが、児童の主体的な取組になっていないことが考えられる。教師側の手立ての工夫や見直しが必要である。 本校区では、地域主体で年間を通じて多くの行事が催されており、多くの児童が参加している。児童にとって地域や社会との繋がりを感ずることのできる機会になっている。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<p>◎学力向上のための特設時間の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 月曜日、木曜日・金曜日の朝の活動を「学習タイム」とし、それぞれ、算数、国語の基礎学習や考えを表現するワークに取り組んでいる。どの取組もやりっ放しにならないように15分間の活動の内、10分で取り組み、残りの5分で前回の解説と見直しなどを行うようにする。 1～3年生は水曜日の6校時の時間帯をパワーアップタイムとして、20分間ほど、国語、算数の補充学習をしてから下校している。 <p>◎「中井授業スタンダード」を基本とした授業づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ①学習の確認や学習の予測ができる「めあて・見通し」、②自分の考えをもたせて他者と協働させる「学び合い」、③学びを実感し、自己確認ができる「まとめ・振り返り」に基づいた、柔軟な創意工夫をして日々の授業実践に取り組む。 <p>◎「学び合う」ことに視点をあてた授業づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 学び合いができるようにするための手立てを工夫し、子ども一人ひとりが自分の考えをもって、学び合いに参加し、他者の考えと自分の考えを比較、関係づけ、統合しながら、自分やみんなの考えを確かにしていく。
--

② 家庭生活習慣等に関する取組

<p>◎家庭学習のスタンダード化(時間、学年別・教科別内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭学習時間のめやすの時間を(学年×10+10)分程度とする。 校内で作成した「家庭学習の手引き」について通信や懇談会等で知らせる。 懇談会やPTA理事会などの機会に「家庭学習チャレンジハンドブック」を活用し、家庭学習の意義や取り組み方などについて伝える。 学力向上推進委員会を兼ねた主題推進委員会等で児童が計画的に取り組むことのできる家庭学習の取り組みませ方について話し合うとともに、職員の共通理解を図る。 <p>◎全国学力・学習状況調査の課題と取組等を保護者へ周知</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童質問紙の内容で重点的に取り組むものを抜粋して、全児童にアンケートを実施することで、課題を明確にし、職員の共通理解のもとで課題解決に取り組む。 学校だよりや学校HPで結果と取組を説明し、家庭と連携し協力体制を整える。
